



平成20年3月期 第1四半期財務・業績の概況

平成19年8月10日

上場会社名 STEILAR C.K.M株式会社 上場取引所 JQ
 コード番号 2673 URL <http://www.yumetai.co.jp/>
 代表者(役職名) 代表取締役 (氏名) 橋本勝司
 問合せ先責任者(役職名) 取締役総務部門担当(氏名) 野口正己 TEL (03) 5326-8880

(百万円未満切捨て)

1. 平成20年3月期第1四半期の連結業績(平成19年4月1日 ~ 平成19年6月30日)

(1) 連結経営成績 (%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年3月期第1四半期	1,632	(3.8)	4	(-)	3	(-)	9	(-)
19年3月期第1四半期	1,572	(13.4)	9	(-)	12	(-)	11	(-)
19年3月期	7,379		178		212		338	

	1株当たり四半期 (当期)純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益
	円 銭	円 銭
20年3月期第1四半期	2 15	- -
19年3月期第1四半期	2 50	- -
19年3月期	74 49	- -

(注)19年3月期第1四半期及び20年3月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益並びに19年3月期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、1株当たり純損失であるため、記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
20年3月期第1四半期	4,810	840	17.3	186 06
19年3月期第1四半期	5,621	1,246	22.1	272 08
19年3月期	5,002	850	16.9	188 48

2. 配当の状況

	1株当たり配当金
	第1四半期末
(基準日)	
20年3月期第1四半期	円 銭
19年3月期第1四半期	- -

3. 平成20年3月期の連結業績予想(平成19年4月1日～平成20年3月31日) 【参考】
(%表示は、通期は対前期、中間期は対前年中間期増減率)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %	円 銭
中間期	3,915 (18.6)	112 (-)	106 (-)	106 (-)	23 70
通期	8,335 (13.0)	514 (-)	501 (-)	386 (-)	86 27

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う 特定子会社の異動) : 無
(2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

[(注)上記(1)～(3)の詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】 4.その他をご覧ください。]

(4) 個別経営成績及び財政状態の概要(平成19年4月1日～平成19年6月30日) 【参考】

	売上高	営業利益	経常利益	四半期(当期)純利益
	百万円 %	百万円 %	百万円 %	百万円 %
20年3月期第1四半期	1,515 (0.6)	0 (-)	3 (90.2)	17 (39.0)
19年3月期第1四半期	1,505 (11.3)	8 (-)	33 (19.9)	28 (15.0)
19年3月期	6,367	226	172	366

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
20年3月期第1四半期	3,883	812	20.9	181 40
19年3月期第1四半期	5,032	1,261	25.1	276 42
19年3月期	4,071	796	19.6	177 78

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来に関する見通しに基づく予測が含まれております。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と大きく異なる結果となる可能性があります。

【定性的情報・財務諸表等】**1. 連結経営成績に関する定性的情報**

当四半期においては、当社グループは以下のように活動してまいりました。

通販小売事業**イ. カタログ部門**

カタログ部門では、従来ターゲットとしている中高年男性から、既存会員の「家族の囲い込み」を行うことで、女性層への領域拡大を強化しております。月刊誌「せいかつ百貨事典」「人こと発見」では、メインターゲットを主婦層に絞り込み、新規女性顧客の獲得を推進しました。一方、男性顧客をターゲットとした月刊誌「道具の学校」「LEA」、季刊で発行する「夢見つけ隊」では、カタログの個性化を推進することで各カタログのファンの拡大を目指しました。

また、商品露出割合の増加を狙い、1ページあたりの掲載商品数をアップしたことで、販促費効率が向上しております。しかしながら、主力商品のオリジナル化及びOEM化が、第1四半期では実績に繋がっておりません。今後、特定ジャンルの拡大やカタログポジショニングの見直しを行い、第2四半期以降の収益構造の強化と売上高の拡大を図ります。

以上の結果、当四半期のカタログ部門の売上高は8億36百万円(前年同期比3.8%増)となりました。

ロ. 事業部門(頒布部門)

健康事業・化粧品事業においては、外部新規顧客に対する販売の拡大及び新規顧客獲得増加を図るために、単品での外部メディア拡販を新たな戦略に加えしました。健康・美容のリピート消耗品については、競合他社との競争優位性確立を図り、独自性の高いオリジナル商品開発を強化しました。さらに、顧客との継続性を向上させるため、購入後のフォローアップ体制を整えました。しかしながら、現時点において集客及びリピート継続率については、計画通りに推移できず、売上高減少の要因となっております。

また、趣味・コレクター商品の頒布事業においても、商品企画面での課題が残り、コースの充実と「収集を趣味とする顧客」の増加に繋げることが出来ませんでした。

以上の結果、当四半期の事業部門の売上高は2億54百万円(前年同期比15.9%減)となりました。

ハ. メディア部門

特定会員を保有している他社への広告出稿及び共同DMの発行を積極的に進め、さまざまな販売促進キャンペーンを実施し、売上の拡大を狙うと共に新規顧客の獲得を行うことにより、業績の拡大に努めました。

また、前年度から取り組んでいる通信販売におけるMD、流通機構及びコールセンターなどのソリューション提供ビジネスにつきましては、特定の会員組織を持つ通販新規参入者に対し、自社商品の販売と併せて推進して参りました。

しかしながら、顧客及び市場のニーズを探り、同様のビジネスを展開する他社と内容・価格などの点において差別化を図ること及び新規取引先様の開拓が当四半期においては大きな実績に繋がらず引き続きの課題として残りました。

以上の結果、当四半期のメディア部門の売上高は2億66百万円(前年同期比3.5%増)となりました。

ニ. 通信メディア部門

自社サイトである夢隊WEBでは、広告表現の見直しを行うとともに、前期のリニューアル以降行ってきた広告の検証を進め、リスティング広告、アフィリエイト広告を中心に展開してまいりました。それらの活動により購買に繋がる導線と新規顧客獲得を増加させる今後の広告活動の方向性を計画に加えました。同時に、現サイトの検証を進め、SEO対策・顧客を引き込むコンテンツ制作・ユーザビリティの向上等の課題や必要事項の洗い出しを行いました。また、自社サイト及び外部ショッピングモールにおきましては、インセンティブを積極的に打ち出し顧客サービスとしてプレゼント企画や、送料無料企画を行うことで新規顧客獲得に繋がりました。

以上の結果、当四半期の通信メディア部門の売上高は1億19百万円(前年同期比12.4%増)となりました。

ホ. その他部門

コールセンター業務を行っている株式会社ホット・コミュニケーションは、電話及びネット受注業務においてインターネット事業や健康・化粧品事業と連動し、顧客のリピート注文を増やすべく販売促進活動を積極的に行いました。また、受注時や問い合わせ対応時に顧客一人一人の要望に個別に応え、よりコミュニケーションを深めながら個別顧客対応が出来る「コンシェルジュ」サービスを行っております。

株式会社夢隊ファクトリーでは当社グループ通信販売カタログの編集制作の支援事業を推進し、カタログ部門の企画特集ページ制作などを中心に活動しております。

以上の結果、当四半期のその他部門の売上高は6百万円(前年同期比79.3%減)となりました。なお、前年同四半期において、通販小売事業のその他部門に含まれていたグリストラップ浄化装置等のレンタル事業につきましては、当四半期よりその他事業に含めております。その影響額は、売上高36百万円であります。

以上の結果、当四半期の通販小売事業の売上高は14億84百万円(前年同期比1.4%減)となりました。

不動産事業

株式会社クリスタルアース及び匿名組合1組合は、所有する賃貸用ビルの入居率向上を図ることで、安定した賃貸収入の確保に努めました。

以上の結果、当四半期の不動産事業の売上高は42百万円(前年同期比56.4%増)となりました。なお、前中間連結会計期間より「投資事業組合に対する支配力基準及び影響力基準の適用に関する実務上の取扱い」(企業会計基準委員会平成18年9月8日実務対応報告第20号)を適用したことにより、匿名組合1組合が連結の範囲に含まれました。そのため、前年同四半期においては、連結の範囲に含まれなかった匿名組合1組合の売上高が、当四半期においては、連結の範囲に含まれております。これにより、前年同期に比べ売上高が増加しております。

その他事業

株式会社S・Rプロモーションは、歌手・俳優などのタレントマネジメント業務において大手レコード会社との契約が成立し、ドラマ出演などメジャーへの進出の足がかりができました。更に、コンサートイベント事業も集客が増加し、興行収益の拡大につながりました。また、アーティストのファンクラブの運営においては、新規会員の獲得強化を図り、ファンクラブ会費収入が増加しております。

ライフステージ株式会社においては、デイサービス(通所介護)を行っております。

グリストラップ浄化装置等の機械装置のレンタル事業においては、新規の設備の取得及びレンタルを行っております。

以上の結果、当四半期のその他事業の売上高は1億5百万円(前年同期比165.4%増)となりました。なお、前年同四半期において、通販小売事業のその他部門に含まれていたグリストラップ浄化装置等のレンタル事業につきましては、当四半期よりその他事業に含めております。その影響額は、売上高36百万円であります。また、前連結会計年度において、区分掲記していた店販小売事業につきましては、重要性が低下したことから、その他事業に含めております。その影響額は、売上高0百万円であります。

以上の結果、当四半期(連結)の売上高は16億32百万円(前年同期比3.8%増)経常損失は3百万円(前年同期は経常損失12百万円)四半期純損失9百万円(前年同期は四半期純損失11百万円)となりました。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期末の財政状態につきましては、総資産48億10百万円(前連結会計年度末比1億91百万円減少)負債の部合計39億70百万円(前連結会計年度末比1億81百万円減少)となり、純資産の部合計は8億40百万円(前連結会計年度末比10百万円減少)となりました。

なお、前中間連結会計期間より「投資事業組合に対する支配力基準及び影響力基準の適用に関する実務上の取扱い」(企業会計基準委員会平成18年9月8日実務対応報告第20号)を適用したことにより、匿名組合1組合が連結の範囲に含まれたため、同匿名組合の保有するビルが有形固定資産に加わっております。前年第1四半期末と比べ、有形固定資産が6億90百万円増加しておりますが、そのビルの増加が主な要因であります。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき予想しました結果、平成19年5月15日に発表した業績予想値に変更はありません。

なお、実際の業績につきましては、今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

該当事項はありません。

(2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

たな卸資産のたな卸高は、帳簿たな卸によって算定しております。

(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更

該当事項はありません。

(4) 重要な後発事象

当社は、平成19年7月20日開催の取締役会において、平成19年9月1日を期して、当社の連結子会社である株式会社クリスタルアースを吸収合併することを決議いたしました。なお、本件合併による連結業績への影響は軽微であります。

5.(要約)四半期連結財務諸表

(1)(要約)四半期連結貸借対照表

(単位:百万円、%)

科 目	前年同四半期末 平成19年3月期 第1四半期末	当四半期末 平成20年3月期 第1四半期末	増 減		(参考)前期末 (平成19年3月 期末)
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
(資産の部)					
流動資産					
1.現金及び預金	1,685	1,034			1,215
2.売掛金	748	705			704
3.たな卸資産	1,392	972			925
4.その他	248	136			110
流動資産合計	4,075	2,849	1,225	30.1	2,955
固定資産					
1.有形固定資産	456	1,147			1,119
2.無形固定資産	62	94			95
3.投資その他の資産	1,027	719			832
固定資産合計	1,545	1,961	415	26.9	2,047
資産合計	5,621	4,810	810	14.4	5,002
(負債の部)					
流動負債					
1.支払手形及び買掛金	801	784			726
2.1年内償還社債	180	285			285
3.短期借入金	639	584			586
4.その他	566	409			458
流動負債合計	2,187	2,063	123	5.7	2,056
固定負債					
1.社債	450	360			442
2.長期借入金	1,717	1,514			1,610
3.その他	20	32			42
固定負債合計	2,187	1,907	280	12.8	2,095
負債合計	4,374	3,970	404	9.2	4,152
(純資産の部)					
株主資本					
1.資本金	368	368			368
2.資本剰余金	362	362			362
3.利益剰余金	700	333			342
4.自己株式	194	222			222
株主資本合計	1,236	841	394	31.9	851
評価・換算差額等					
1.その他有価証券評価差額金	10	10			7
2.繰延ヘッジ損益	4	2			0
評価・換算差額等合計	5	8	13	-	6
少数株主持分	4	6			6
純資産合計	1,246	840	406	32.6	850
負債、純資産合計	5,621	4,810	810	14.4	5,002

(2) (要約)四半期連結損益計算書

(単位:百万円、%)

科 目	前年同四半期 平成19年3月期 第1四半期	当四半期 平成20年3月期 第1四半期	増 減		(参考)前期 (平成19年3月 期)
	金 額	金 額	金 額	増減率	金 額
売上高	1,572	1,632	59	3.8	7,379
売上原価	754	829	75	10.0	3,950
売上総利益	818	802	16	2.0	3,428
販売費及び一般管理費	828	798	30	3.7	3,607
営業利益又は営業損失()	9	4	14	-	178
営業外収益	8	8	0	1.3	45
営業外費用	10	16	5	53.2	78
経常損失	12	3	8	-	212
特別利益	0	18	18	-	72
特別損失	0	22	22	-	133
税金等調整前四半期(当期) 純損失	12	7	4	-	273
法人税、住民税及び事業税	0	1	0	252.5	3
法人税等調整額	0	0	0	28.1	60
少数株主利益 又は少数株主損失()	1	0	1	-	0
四半期(当期)純損失	11	9	1	-	338